

「特集ワイド」へご意見、ご感想を t.yukan@mainichi.co.jp

「台湾の離島に」は夢か

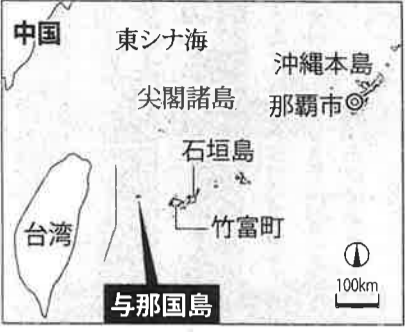
「台湾の離島のようにないか…」。糸数健一・沖縄県与那国町長(71)の言葉が耳から離れない。10月に日本最西端の与那国島で開かれた、国内の「国境」地域自治体の関係者や研究者で作る「境界地域研究ネットワークJAPAN」のセミナーで聞いたせりふだ。その真意を探り、島を歩いた。

与那国町は、与那国島(東西約12キロ、南北約4キロ)だけが町域で人口1699人(2023年12月現在)。テレビドラマ・映画「Dr.コトー診療所」の撮影地などとして知られるが、実は16年から陸上自衛隊のレーダー部隊が駐屯する。対中抑止力強化だけでなく、町が過疎化対策で誘致したものだ。今後ミサイルも配備される。が、島再生の決定打にはなっていない。

着いた翌日、バスで島内を回った。海辺は断崖が多い。「日本最西端の碑」がある断崖上から気象条件のよい年数回、台湾を望める。島の反対側は、約90キロ先の「隣接」自治体、竹富町の西表島が見えることもある。与那国町は、00年代の「平成の大合併」で、共に八重山列島を構成する竹富町や石垣市と合併を検討したが、結局、自立を選んだ。台湾航路開設や物流自由化などの「国境交流特区」を国に申請したが、2回却下。町は自衛隊誘致にかじを切った。バスが集落に入る。島内三つの集落全てに自衛隊の官舎があ

0人を割っていた人口は06年ごろの水準に戻った。子供が増え複式学級は解消傾向。地域行事も自衛官の参加で活気づく。駐屯地の町有地賃賃料で学校給食は無償化され、税収も増えた。ごみ焼却施設もできた。町民1人当たり所得は、11年度の約231万円から県内2位の約358万円(21年度)に。ただし、自衛官は3年ほどで異動だから島の自治を継続的に担えない。自衛隊関係者は町民の2割ともいう。町の人口は男性が959人と女性より220人も多い。沖縄は石垣島や宮古島も自衛隊配備で揺れるが、どちらも自衛官は人口の1割ほどで存在感はかなり違う。

セミナー終了後に取材した田里千代基町議(67)は「ミサイル部隊が来たら、町民の4割が自衛隊関係者になるかも」。田里さんは、今も自衛隊反対を公言する数少ない町民である。「多くの人は自衛官との付き合いが上、表向き反対しにくい」。反対といえばこんな話も。駐屯地開設前、誘致反対を唱えていた元町議の小嶺博泉さん(53)は、知人に突然こう言われた。「あなた、日本人なの？ 支那人なの？」。以前は、人を「支那人」などと見下すタイプではなかった。誘致と関連してか、



テレビドラマ・映画「Dr.コトー診療所」のセットとして建てられた建物は内部見学もできる—いづれも沖縄県与那国町与那国で

「国境の島」与那国の苦悩

細る産業 自衛隊誘致の限界



海辺は断崖や斜面の多い島だがこんな砂浜もある

本土から持ち込まれたらしい「右派」的な思考の伝染力に仰天した。なお、今回私が話した自衛隊関係者は、本土の「右派」論者に嫌悪感を示したが。島内に自衛隊反対の看板などはなくなっても、生活の不便さは変わらない。島外との空路はプロペラ機が主に石垣市へ1日5往復だけ。物資の多くは石垣市からフェリーで運ぶが、週2便。歯科治療は飛行機や船で石垣市へ。最寄りコンビニエンスストアは台湾東岸にある。本土や沖縄本島との距離は、物価にも影響する。ガソリン小売価格は1リットルあたり207円(県調べ、6月24日現在)と東京より約40円も高い。小嶺さんは「シーレーンを守らないと原油は輸入できないらしいが、その防衛に貢献する島でこの値段……」。鉄筋コンクリート建物は「自衛隊関連の工事が引き上げたこともあり、那覇市の3倍近い」(小嶺さん)。

産業も厳しい。観光客数は年間約4万人。八重山全体は約150万人(コロナ禍前)なのに。ダイビングスポット「海底遺跡」や日本在来馬の与那国馬、琉球王国による侵略(16世紀)前からの史跡など観光資源は多いが、不便すぎる。耕作放棄地も目立つ。今も作付けする稲作農家は1軒と聞いた。複数の町民が「1人当たり所得は自衛官が押し上げただけ。元からの住民は土建業者以外潤っていない」ともらした。

島は、この歴史をも忘れていない。【鈴木英生、写真も】

必要ですが、それだけでは困ります。本土の気をひくためとおぼしき「極右」的発言も目立つ糸数町長だが、本音はこうらだろう。少なくとも、自衛隊の駐屯だけで島が発展するのは、おそらく不可能だ。だからこそ、台湾との交流である。近年、直行チャーター便などが実験的に運航されてきた。台湾からも昨夏、立法院長(国会議長)らが高速船に乗って約2時間で来た。島での入管や税関の実績はできた。あとは定期運航可能な船や事業者を用意し、国の特区指定などで人流、物流の小さくともハブになれたら……。

糸数町長は、セミナーで「この島の先にあるのは台湾という民主的な『国』。だから安心して暮らせる」とも語った。英「エコノミスト」誌発表の民主主義指数ランキングで、台湾は世界10位(23年、日本は16位)を誇る。立法院の女性比率は約4割で、少数民族の議席があったり、同性婚を合法化したり。中国の権威主義体制と対照的な「リベラル」さである。台湾とつながれば、その「自由と繁栄」に加えて「リベラル」な社会文化をも享受できる。つまり、島の風通しに魅力が加わる。そもそも、小嶺さんが以前聞いたような差別的・排外的言辭は、日米台が軍事力で守る民主的な価値と相いれない。05年に町が策定した「与那国・自立へのビジョン」は、「国境の島に自国民が居住・生活することは、国土を保全し、かつ、わが国の領土・領海・経済水域等を平和的に守る上で極めて重要」とする。町民は「国境の島守」。だからこそ、町の「安全・安心」と「持続可能な地域社会」に「国による制度的措置が強く求められる」。